

全日本実業柔道団体対抗大会報告書

旭化成Aが2年ぶり12度目の優勝

女子はコマツが6年ぶり5度目のV

厚生労働大臣杯争奪第57回全日本実業柔道団体対抗大会は、世界に冠たる平和都市にして国内有数のスポーツ王国、広島で開催された。会場を「広島市東区スポーツセンター」に置き、会期は6月2日(土)、3日(日)の二日間。

参加チームは女子1チームの欠場により、105チーム(男子88チーム、女子17チーム)。リオデジャネイロ世界選手権大会の代表、同代表候補の5人の選手も出場した。ハイレベルの大会は6試合場で行われた。会場内は歓声がこだまし、青畳の上では若人の熱い戦いが繰り広げられた。



開会式であいさつする森詳介副会長

広島市では、1986年(昭和61年)に第36回大会が開催されて以来、21年ぶり3度目の開催となった。

開会式では、年間最優秀選手の表彰があった。男子の年間最優秀選手に贈られる永野重雄杯は該当選手はなく、女子の年間最優秀選手賞である宮崎輝杯は2006年全日本選抜体重別選手権、アジア競技大会、福岡国際女子選手権78kg級優勝の中澤さえ



開会式

2段(総合警備保障)に授与された。又、功労賞(15回出場)の表彰も行われた。(別記参照)

初日は、男子第三部で新日本製鐵がNEXCO柔道倶楽部を2-0で退けて初優勝した。

女子第一部は4チームでリーグ戦を行い、全試合全勝のコマツが6年ぶり5度目の優勝旗を手にした。

最終日、男子第一部は、旭化成が高橋選手や泉選手らの活躍で、決勝戦初進出した。徳寺学園を2-0で降し、2年ぶり12度目の優勝を成し遂げた。

男子第二部は、スキのないメンバー構成の了徳寺学園がセコムを2-1で制し、2度目の優勝を飾る。来年は4チームが第一部出場権を獲得。



選手宣誓をする近野貞治選手(総合警備保障)

女子第二部は了徳寺学園が初出場の立命館柔道クラブを2-0で一蹴、二連覇を果たした。

尚、来年の大会は6月7日(土)、8日(日)、横浜市の横浜文化体育館に於いて举行される。1965年(昭和40年)に同じく横浜文化体育館で举行された第15回大会から、年齢を重ねること実に43年ぶり、3度目の横浜市での開催となる。



平成18年度年間最優秀選手

〔永野重雄杯〕 該当者なし

〔宮崎輝杯〕 中澤さえ(総合警備保障)

功労賞(15回出場)

東間弘展(JFEスチール)

男子第一部

旭化成A 2年ぶり12度目のV、 世界選手権90kg級代表の泉が 3戦全勝、獅子奮迅の活躍

了徳寺学園対旭化成Aの決勝戦。了徳寺学園は連覇を狙う総合警備保障を2-0、旭化成Aは平成管財を同じく2-0で降しての決勝戦。共に息詰まる接戦を勝ち抜いて意気上がる両雄の決戦。試合時間は、男女とも第一部は5分で行われる。その他の部は4分間。



泉は攻め続け優勢勝、旭化成先制

見せる。両者互いに決め手なく経過した2分49秒、動きの止まったところで両者に指導1。その後も同じ展開が続く、技らしい技の応酬もなく時間となり、引分。

次鋒戦は、左右のけんか組み手、中量級同士の対戦。序盤、両者引き手争いに終始。増淵は盛んに左内股で攻めるも、引き手不十分。一方の小野は増淵の動きをよく見てチャンス伺うが、攻撃はなし。中盤も同じ展開の中、ようやく小野に組み際の朽木倒、小内刈が開始される。増淵は猶も左内股で攻めるが、引き手不十分のため小野は余裕をもって受ける。そのまま時間が経過し引分。

中堅戦。両者左組み、90kg級同士。序盤は互角の戦いであったが、徐々に泉の人数が増える。2分5秒技の出ない竹澤に指導1。その後も泉は竹澤の出端にカウンター気味の一本背負投を連発。幾度か竹澤は大きく転がるも、危うく伏せて着地。かかる展開が続く、4分7秒には攻めの乏しい竹澤に指導2。その後も泉は低い一本背負投を連発。泉の優勢勝で旭化成Aがリードを奪う。

副将戦は、佐藤左組み、齋藤右組みのけんか組み手の対戦。幾度か技が潰れ、伏せた佐藤を齋藤は寝技に引き込もうとするが、佐藤は自らの体を重しにして、畳に居付く。齋藤は猶も執拗に攻めるが、悉く不首尾に終わる。一方、両者の立ち技の攻防は乏しく、両者互いに組み手を制することなく引ける。

1点差で迎えた大将戦。左組み同士の両

者は厳しい組み手争いを展開。矢寄は高橋に釣り手を許さず、高橋は矢寄のタックルを警戒する。44秒には技の出さない両者に指導1。矢寄は挽回を期して盛んに攻撃の糸口を伺うも、歴戦の強者高橋はこれを落ち着いて捌く。1分58秒には、矢寄は高橋の袖口グリップをアピールして後ろに退き、不用意に場外に出て指導2を受ける。この後、リードした高橋は矢寄の奇襲に備える。矢寄はその機を狙うも果たせず、時間。慎重な試合運びに徹した高橋が優勢勝し、旭化成Aの12度目、2年ぶりの優勝が決定。



男子第一部優勝 旭化成Aチーム

優勝決定の瞬間、主将高橋は両手を水平に上げて喜びを控えめに表わし、会場の応援団は喜びを爆発させた。

■優勝監督コメント

旭化成 中村佳央

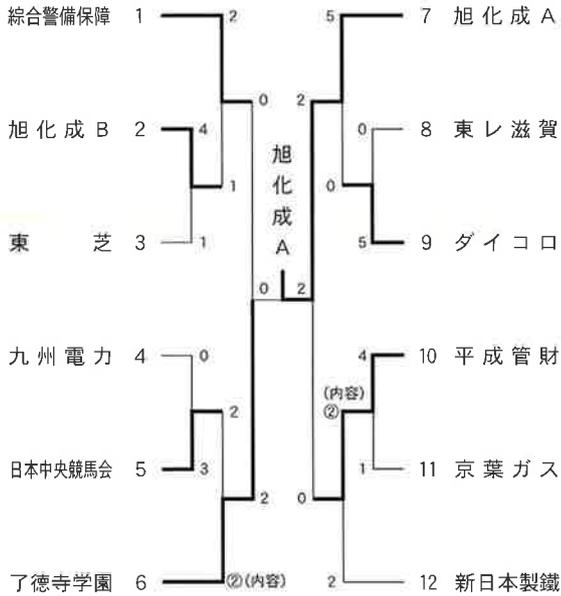
去年5連覇を目標に頑張ったが果たせず、その分今年チーム一丸となり全力で大会に臨んだ。その結果の勝利で本当に嬉しい。泉は昨年のリベンジに燃えていた。首の治療中だが今大会に合わせ良く調整してくれた。高井も怪我をしていたが、良くポイントを取ってくれた。オーダーは中村(兼)、繁昌と三人で試合毎に考えた。会社のバックアップと選手達に感謝したい。



大将戦 お互い攻めあうが高橋の優勢勝

男子第一部成績表

優勝 旭化成 A
 準優勝 了徳寺学園
 第3位 総合警備保障
 第3位 平成管財



東芝、九州電力、東レ滋賀、京葉ガスの4チームは
 次年度第二部に降格する

【準決勝】

第1試合

総合警備保障 0-2 了徳寺学園
 小野俊教 3段 —×— 矢寄雄大 4段
 大藤尚哉 3段 合技 竹澤俊裕 4段○
 生田秀和 5段 —×— 飛塚雅俊 4段
 工藤瑠輝 4段 優勢勝ち 佐藤武尊 3段○
 村上和幸 3段 —×— 小野卓志 4段

第2試合

旭化成 A 2-0 平成管財
 ○高井洋平 4段 優勢勝ち 百瀬晃士 3段
 齋藤制剛 4段 —×— 里山裕晃 4段
 高橋宏明 5段 —×— 鈴木桂治 5段
 ○泉 浩 4段 優勢勝ち A.タングリエフ 4段
 村元辰寛 5段 —×— 筒井宏樹 4段

【決勝】

了徳寺学園 0-2 旭化成 A
 飛塚雅俊 4段 —×— 村元辰寛 5段
 小野卓志 4段 —×— 増渕 樹 3段
 竹澤俊裕 4段 優勢勝ち 泉 浩 4段○
 佐藤武尊 3段 —×— 齋藤制剛 4段
 矢寄雄大 4段 優勢勝ち 高橋宏明 5段○

優秀選手

〔男子〕

第一部

泉 浩 (旭化成 A)

高橋宏明 (旭化成 A)

小野卓志 (了徳寺学園)

小野俊教 (総合警備保障)

鈴木桂治 (平成管財)

第二部

軽部友和 (了徳寺学園)

大村昌弘 (了徳寺学園)

本郷光道 (セコム)

篠田盛継 (日本通運 A)

保立 勝 (アルゼ)

第三部

吉岡正人 (新日本製鐵)

浦邊正洋 (新日本製鐵)

深川幸太郎 (NEXCO柔道倶楽部 A)

山田光樹 (JAKE・JAPAN)

猪又秀和 (セコム上信越 A)

〔女子〕

第一部

宇高菜絵 (コマツ)

岡 明日香 (コマツ)

上野順恵 (三井住友海上火災保険)

第二部

宮本樹里 (了徳寺学園)

七條芳美 (了徳寺学園)

白井 愛 (立命館柔道クラブ)

男子第二部

了徳寺学園 大将戦の瞬間の飛び道具で逆転優勝 セコムは、決勝戦で涙を飲むも来年は第一部に復帰

参加チーム数23チームによる戦いを制して決勝戦に進出したのは、破竹の進撃を続け、準決勝戦も日本通運Aを4-0で圧勝した了徳寺学園と、同じく危なげなく勝ち進んだセコムの両雄。両チーム共に昨年第一部より第二部に転落。最短期間1年での第一部復帰を果たしたの決勝。

先鋒戦。松岡左組み、坂本右組みのけんか組み手。似たタイプ同士の一戦は引き手争いから始まり、松岡は内股、大内刈、体落で攻め、坂本は右内股で攻め、時に左の一本背負投、双手刈といった奇襲を試みる。しかし、いずれも決め手を欠き、引分ける。

次鋒戦。左右のけんか組み手の両者は、組み手争いに精力を費やし、攻撃は散発。時折、坂本が寝技で攻めるが、青木はこれを嫌う。両者が2分2秒に指導1、3分18秒には指導2が与えられて、そのまま引分。中堅戦は、互いに技が出ず、両者に1分7秒指導1。続いて、2分29秒には指導2。その直後の2分34秒に、猛然と奥襟を狙って覆いかぶさって来た益田を、大村は脇の下に手を添えて抱え込み、委細かまわず後方へ振るよう小外掛で倒せば、増田は後方に大きく落下し技あり。了徳寺学園先勝。

けんか組み手の対戦となった副将戦。長身の本郷が組み勝ち、川山の奥襟を制し長身を利して大外刈、大内刈、時に小内刈で攻めるも川山はよく残す。川山は、組み際に低い姿勢から背負投や小内刈を繰り出す。終盤になっても間断なく攻める本郷に、川山は守勢を続け、残り44秒に指導1。その後川山は反撃を試みるも効果乏しくそのまま時間。セコムが一矢報いる。

大将戦。左右のけんか組み手の対戦。35秒に軽部は跳び付き腕挫十字固を試みるが

不発に終わる。その後は柴田の攻勢。軽部は防御の色濃い試合運び。試合中盤の1分51秒には、柴田は軽部が小内刈に来たところを、倒れながら裏投げで相手を横に振ると、軽部は畳に背中から落ちて技ありとなる。柴田はすかさず上四方固で抑えるが、10秒余りで軽部これを振りほどき危地を脱する。これで了徳寺学園の敗色いよいよ濃厚と思われたが、一寸先は闇。その直後の2分25秒、軽部はこの試合2度目、思い切った腕挫十字固を仕掛けて背中から着地。これに虚を衝かれた柴田は完全に腕を極められ、思わず軽部の太腿を幾度も叩く。柴田の顔は苦痛と敗戦の衝撃に歪み、軽部は思わずガッツポーズ。軽部は意表を付く奇襲戦法で、劇的な逆転勝を納めた。了徳寺学園は4年ぶり2度目の優勝成る。

優勝監督コメント

了徳寺学園 山田利彦

大将戦はあそこで押さえ込まれていれば一巻の終わりだったが、良く逃げた。軽部は最後まで攻め続け、一瞬のチャンスをつかりものにした。今までは練習もバラバラだったが、講道館での合同練習により、チームワークが良くなった。今日は、チームワークで勝ち取った優勝です。来年は一部に2チーム出場するが、一部優勝を目指します。



軽部、危機を脱出し劇的な逆転優勝へ



第二部優勝の了徳寺学園チーム

【決勝】

了徳寺学園	2-1	セコム
松岡美貴 3段	—×—	坂本雄大 4段
坂本周作 4段	—×—	青木勝士 3段
○大村昌弘 3段	優勢勝ち	増田圭省 3段
川山光 3段	優勢勝ち	本郷光道 3段
○軽部友和 4段	腕挫十字固	柴田真 3段

男子第二部成績表

優勝	了徳寺学園	第3位	日本通運A
準優勝	セコム	第3位	アールゼ

以上の4チームは次年度第一部に昇格する



男子 第三部

第三部初出場の新日本製鐵が堂々の優勝 ベテラン揃いのNEXCO柔道倶楽部、奮闘空しく決勝戦で力尽く

53チームでの優勝争い。内、地元広島からは常連の三菱レイヨン大竹を始め5チーム（開催地特別参加は2チーム）が参加した。決勝戦は新日本製鐵対NEXCO柔道倶楽部の対戦。新日本製鐵は実業柔道の看板チームながら、この第三部に出場の選手は新人中心の若いチーム。第三回戦の群馬総合ガードシステム戦以外は圧勝で決勝戦進出。対するNEXCO柔道倶楽部は元日本道路公団。柔道部を解散しクラブチームとして新規に登録。柔道好きのベテラン名選手が結集して、決勝戦まで破竹の勢いで勝ち上がる。

先鋒戦。左組みの両者、互いに警戒して技が出ず1分51秒両者に指導1。その後も両者がつぶり組み合うばかりで、無為に時間経過。終盤になりようやく吉崎が攻め始めるが、時既に遅く引分ける。次鋒戦は古賀右組み、深川左組みの対戦。体重差は30kg近い。古賀は軽量ながらもよく動き、深川の得意の組み手を封じる。攻撃のない両者に1分26秒指導1。2分過ぎ、古賀は危うく深川の強烈な大外刈に倒されそうになるが、辛うじてこれを防ぐ。古賀はその後巴投等を仕掛け深川に組ませず、隙も見せず、首尾よく引分ける。中堅戦。浦邊左、浦田右のけんか組み手。浦邊は中盤以降、足技から払腰のコンビネーションでよく攻める。スタミナを消耗し、受けに回り始めた浦田に残り1分6秒に指導1。終盤、相手の疲労に乗じた浦邊は畳み掛けるように攻撃を重ねると、時間切れ1秒前に浦田に痛恨の指導2。新日本製鐵リード。

副将戦は、けんか組み手の両者の対戦。右組みの近藤は得意の背負投を、左組みの船津は近藤の釣り手をうまく封じる。終盤

近藤は挽回を期して盛んに攻めるが一步及ばず。残り15秒、組み際に釣り手を伸ばした近藤の右腕を船津が抱え込んで内股に攻め、そのまま腕挫腋固の形で体を預ける。近藤は右腕を抱えて苦痛の表情。直前に居た副審は合議を申し立てるも試合続行となり、そのまま時間。引分。大将戦。中量級の両者、共に試合巧者ぶりを発揮して好勝負を展開。1分過ぎ、組み際の吉岡の足払で畳に伏せた川端を、ベテラン吉岡は執拗に、巧みに、これを裏返して横四方固に抑える。続いて崩裂袷固に移行し、2分ジャストに一本。若手中心のチームの中で兄貴分の吉岡が、ワンチャンスをものにしてチームの優勝に貢献。

優勝監督コメント

新日本製鐵 岡泉 茂

第三部でも簡単には勝たしてもらえないが、優勝しようという気持ちで望んだ。現役選手と既に引退した選手でチームを組んだが、技術的にはレベルの高い選手が揃っている。全員が良い仕事をしたことが優勝に繋がった。



第三部優勝の新日本製鐵チーム

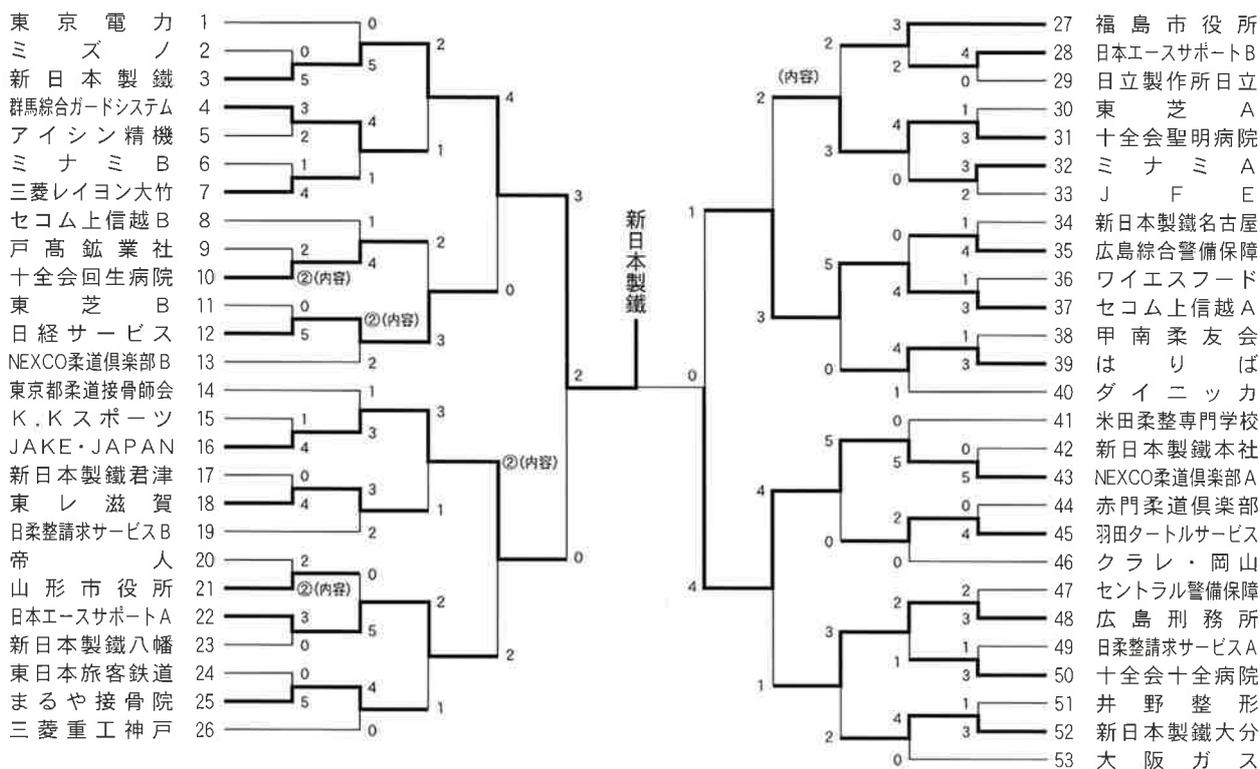
【決 勝】

新日本製鐵	2 - 0	NEXCO柔道倶楽部A
吉崎 晃	2段	中嶋康博 4段
古賀博輝	3段	深川幸太郎 3段
浦邊正洋	3段	優勝勝ち 浦田 剛 4段
船津正貴	3段	近藤秀作 5段
吉岡 正人	4段	横四方固 川端 慎一 3段

男子第三部成績表

優勝	新日本製鐵	第3位	JAKE・JAPAN
準優勝	NEXCO柔道倶楽部A	第3位	セコム上信越A

以上の4チームは次年度第二部に昇格する



女子第一部

コマツ、全試合に勝利し

6年ぶり5度目の優勝に花を添える

4チームのリーグ戦による女子第一部は、共に2勝0敗で迎えた最終戦のコマツ対三井住友海上戦に、コマツが劇的な一本勝2本を挙げ、堂々の優勝。

コマツ 3-1 セコム

先鋒戦は、3分54秒宇高の出足払に、佐藤は膝から崩れる、効果。次鋒戦はけんか組み手の両者、内股での攻め合うも効なし。1分20秒に勢い込んで仕掛けた峯田の内股を、岩田は押し潰すように前に倒し効果。中堅戦は好勝負を展開。残り1分組み際に植木が渡邊の腰に右手を回し、小外掛から体を浴びせて有効を奪い一矢報いる。けんか組み手の対戦の副将戦。互いに攻め合う中、残り11秒組み際に岡が大内刈で鋭く刈り込むと、これが鮮やかに決まり一本。大将戦は谷本が寝技での勝負に拘るが、鳥谷部を攻めあぐね引分。

三井住友海上 2-1 セコム

先鋒戦、残り31秒に佐藤が低い小外掛から横捨身に体を捨て、徳久を横転させ効果。次鋒戦は互いに譲らず激しい攻防が続く。残り4秒岩藤の内股に峯田がたまらず横転し効果。中堅戦は両者指導1の後の2分22秒、上野(順)は小外刈で有効を奪い、そのまま植木を横四方固で抑えて一本。副将戦、上野(雅)は鋭い足技を繰り出すが、吉澤は組み手を巧みに操り、上野(雅)に決定打を与えずブザー。大将戦。鳥部谷は夕イに持ち込もうと低い背負投を連発するが、

岡田よくしのいで引分。

三井住友海上 0-2 コマツ

先鋒戦、宇高が右組みで岩藤を制すれば、岩藤は右組みでこれに応戦。左に組み止めた25秒に乾坤一擲の内股を放つと、宇高は反応よくこれを透かし、絵に描いたような内股すかしで一本。次鋒戦、宝はスピードある動きで低い背負投を仕掛ける。徳久も鋭い技で宝を幾度もぐらつかせるが、ポイントを奪えず引分ける。中堅戦、三井住友海上のエース上野(雅)は開始10秒勢い込んで、左手で渡邊の右前襟を掴み、右手で渡邊の足を奪おうと前に踏み出した刹那、渡邊は上野の釣り手を抱え込み低い左一本背負投に体を回転させると、上野(雅)は背中からごろりと畳に落ち痛恨の一本負け。副将戦は攻める上野(順)に決定打なく、リードする岡も無理をせず引分。大将戦、谷本は袖釣込腰、体落から寝技に攻める。清水は朽木倒からの寝技で試合が進む。しかし、互いに決定打を欠き、引分。



女子第一部優勝のコマツチーム

優勝監督コメント

コマツ 松岡義之

監督11年で2連覇もあったが以降は2位ばかり。今、うちの選手は意識の高い選手が多く、試合内容も魅力がある。ここ最近では一番良い。今日はやってくれるだろう



宇高、見事な内股すかしでコマツに勢いがつく

【主な対戦結果】

コ	マ	ツ	3-1	セ	コ	ム
◎宇高	菜	絵	2段	優勢勝ち	佐藤	佳江 2段
◎岩田	千	絵	3段	優勢勝ち	峯田	智栄 2段
渡邊	美	奈	初段	優勢勝ち	植木	順子 2段◎
○岡	明	日香	3段	大内刈	吉澤	穂波 3段
谷本	歩	実	3段	—×—	鳥谷	部真弓 2段

三井住友海上	2-1	セ	コ	ム
徳久	瞳 2段	優勢勝ち	佐藤	佳江 2段◎
◎岩藤	理恵 3段	優勢勝ち	峯田	智栄 2段
○上野	順恵 2段	横四方固	植木	順子 2段
上野	雅恵 4段	—×—	吉澤	穂波 3段
岡田	紘味 2段	—×—	鳥谷	部真弓 2段

三井住友海上	0-2	コ	マ	ツ
岩藤	理恵 3段	内股すかし	宇高	菜 絵 2段○
徳久	瞳 2段	—×—	宝	寿栄 2段
上野	雅恵 4段	一本背負投	渡邊	美奈 初段○
上野	順恵 2段	—×—	岡	明日香 3段
清水	千晶 2段	—×—	谷本	歩実 3段

女子第一部成績表 (リーグ戦)

	ヤックス ケアサービス	三井住友海上	コマツ	セコム	勝 0勝0敗0分	負	順 位
ヤックス ケアサービス	△	△	△	△	0勝3敗		4
三井住友海上	○	△	○	○	2勝1敗		2
コマツ	○	○	△	○	3勝0敗		1
セコム	○	△	△	△	1勝2敗		3

と信じていた。初戦こそ心と体がバラバラで雑な感じがしたが、試合をする毎に良くなった。緊張感のある試合は世界に繋がる。リオデジャネイロで頑張らせ、北京へ一人でも多く出場させたい。

女子第二部

了徳寺学園が2年連続優勝

初出場の立命館柔道クラブは堂々の準優勝

エントリィは14チーム（1チーム欠場で13チームの戦い）。決勝戦は連覇を目指す了徳寺学園と大会初出場の立命館柔道クラブとの決戦となった。

先鋒戦、左右のけんか組み手の両者、開始13秒宮本は左組みで釣り手を下方に持ち、右組みの奥田が左へ移行する動きに従い、場外際で大腰に入る。こらえる奥田を左足で大きく跳ね上げて技ありを奪う。その後、奥田は左内股で宮本を攻めるも、一步及ばず。更に奥田は寝技勝負に出るが、惜しくも場外となる。そして迎えた1分41秒、長身奥田が奥襟を掴み、右自然体で攻撃態勢を取る中、宮本は下から奥田の腰を抱えて大腰に入ると、奥田は宮本の腰を軸に大きく弧を描いて畳に落下。宮本見事な大腰で、了徳寺学園先取。

中堅戦、両者右組み。七篠は開始早々から激しく動き、11秒に送足払で効果を取。その後七篠は組み手を制して優勢に試合を進める。39秒に小野が七篠の右技を警戒し、七篠の動きに連れて左足を右方向に送ったその瞬間、七篠はその足を鋭く払って一本を奪う。先鋒から連取した了徳寺学園が早々に連続優勝を決める。大将戦、右組み同士の両者。63kg級の川

崎は低い背負投、長身の白井は内股、足払で攻めるが、互いに決定打を欠き、引分け。了徳寺学園は、群を抜く実力で難なく2連覇を達成。

優勝監督コメント

了徳寺学園 山田利彦

■優勝監督コメント
 昨年は山下（176cm）がいたが、今年は引退したのでメンバーがギリギリだった。長瀬も怪我で出られない。この状況で選手達は良く頑張った。

第一部への気持ちもないわけではないが、選手の不足で昇格は厳しい状況。



女子第二部優勝の了徳寺学園チーム



先鋒宮本、鮮やかな大腰で先制

女子第二部成績表

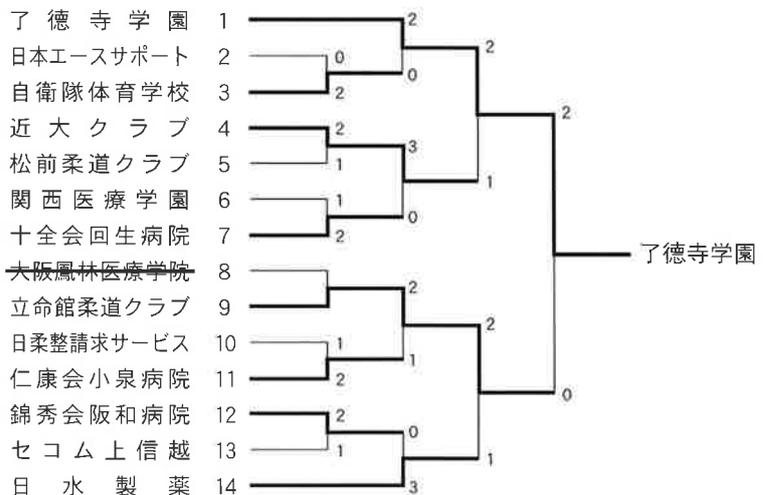
優勝	了徳寺学園	第3位	近大クラブ
準優勝	立命館柔道クラブ	第3位	日水製薬

【準決勝】

了徳寺学園	2 - 1	近大クラブ
○宮本樹里 2段	縦四方固	御厨貴香子 初段
○七條芳美 3段	大外刈	石森敦子 2段
川崎由紀 3段	優勢勝ち	木村祐衣 2段○
立命館柔道クラブ	2 - 1	日水製薬
○奥田朋子 3段	上四方固	三浦真依 3段
小野裕美 2段	袈裟固	東野妙利 2段○
○白井愛 3段	腕挫腹固	長谷川貴美子 2段

【決勝】

了徳寺学園	2 - 0	立命館柔道クラブ
○宮本樹里 2段	大腰	奥田朋子 3段
○七條芳美 3段	送足払	小野裕美 2段
川崎由紀 3段	—×—	白井愛 3段



第57回全日本実業柔道団体対抗大会歓迎レセプション開催

6月2日(土)18時30分より広島全日空ホテル3階オーキッドにおいて、第57回全日本実業柔道団体対抗大会レセプションが盛大に行われた。

当日は、(財)全日本柔道連盟の嘉納行光会長や広島県の藤田雄山知事はじめ、多数のご来賓の方々や、大会役員、競技役員、並びに地元関係者の皆様など総勢150余名の参加があり、歓迎ムード漂う中、和やかな雰囲気でもレセプションが挙行された。

故郷広島県が仄かに残る山口信夫全日本実業柔道連盟会長の挨拶に始まり、藤田知事、島本登夫広島市市民局長の歓迎のことば、嘉納会長はじめ来賓の方々の紹介と続く。そして、昨年の開催地北海道代表、高梨幸輔北海道柔道連盟会長に感謝状の贈呈の後、広島商工会議所金井宏一郎副会頭のご発声による乾杯で祝宴に入った。

宴では、参会者一同、瀬戸内海の海の幸や日本一のお好み焼きに舌鼓を打ち、酒処広島の各地の名酒、秘酒に酔い痴れ、会場内は親睦ムード一色に染まる。そして宴たけなわの頃、来年の開催地を代表して高橋茂神奈川県柔道連盟副会長から次期大会に向けた熱いメッセージがあり、会場は一段と盛り上がりを見せた。

会場内柔道談義で益々盛り上がり、広島の夜も更け行く頃、広島県柔道連盟平岡康司会長による閉会の辞。出席者一同、翌日の全日程の全うと来年横浜での再会を約して三々五々に散会。こうして、57回大会レセプションは、宴のあとの余韻をここかしこにとどめつつ、その幕を閉じた。



山口信夫会長のあいさつ



藤田雄山知事のあいさつ

「定時総会」開催される

第46回定時総会及び平成19年度理事会は、平成19年6月1日(金)午後4時30分から広島全日空ホテル3階オーキッドにて開催された。総会は213社の加盟企業中、137社の出席(委任状提出分含む)、理事会は59名の定足数中、56名(委任状提出分含む)の出席により成立。議長には中岡副会長が選出され、第1号議案から第5号議案について満場一致で承認された。

- 第1号議案 平成18年度事業報告承認の件
- 第2号議案 平成18年度収入支出決算承認の件
- 第3号議案 平成19年度事業計画案承認の件
- 第4号議案 平成19年度収入支出予算承認の件
- 第5号議案 平成19・20年度役員改選の件

2007年 世界柔道選手権大会代表・候補選手(当連盟所属)

〔男 子〕

60kg級	73kg級	81kg級	90kg級	100kg級	100kg超級又は無差別	候補
野村 忠宏 (ミキハウス)	金丸 雄介 (了徳寺学園)	塘内 将彦 (旭化成)	泉 浩 (旭化成)	鈴木 桂治 (平成管財)	井上 康生 (総合警備保障)	高井 洋平 (旭化成)

〔女 子〕

48kg級	57kg級	63kg級	70kg級	78kg級	78kg超級・無差別
谷 亮子 (トヨタ自動車)	佐藤 愛子 (了徳寺学園)	谷本 歩実 (コマツ)	岡 明日香 (コマツ)	中澤 さえ (総合警備保障)	塚田 真希 (総合警備保障)

発行日 2007年7月20日
 発行人 全日本実業柔道連盟
 取材協力 事務局長 郷田博史
 印刷 しゃーナリスト 宮澤正幸
 ダイコ口株式会社